

ジェンダー平等政策サロン



当センターが2011、2012年度に実施した「新企画・ジェンダー平等政策ワークショップ」の成果を踏まえて、今年もジェンダー主流化に関わる国内外の幅広い課題をテーマにとりあげます。自由な雰囲気なかで、講師を交えた意見交換を通して、男女共同参画・ジェンダー平等政策を進めるための提言力を養い、議員・市民・行政担当者など多様な立場の参加者間の交流を深め、ネットワークを広げていきましょう。

期 間 2015年5月30日～11月28日 隔月の最終土曜日、13:30～16:30

会 場 婦選会館（渋谷区代々木2-21-11 ☎03-3370-0238）

定 員 30名（先着申し込み順）

参加費 各回2,050円（茶菓とも）

プログラム

第1回 5月30日

「男女共通の労働時間規制は可能か—家事労働ハラスメントを超えて」

竹信三恵子（和光大学教授）

第2回 7月25日

「子どもの貧困対策をめぐる現状と展望—ジェンダー平等の推進に向けて」

湯澤直美（立教大学教授）

第3回 9月26日

「海外のジェンダー予算の取組み—韓国・フィリピンの事例に着目して」

越智方美（国立女性教育会館研究国際室専門職員）

第4回 11月28日

「国会・地方議会でジェンダー平等は実現するか—制度改革等を視野に入れて」

大山礼子（駒澤大学教授）

▼お申し込み、お問い合わせは下記主催者宛、電話、FAX、Eメールでお願いします。

▼各回の講師プロフィール及び報告概要は、開催の前月までにホームページ、チラシなどでお知らせします。

主催 (公財)市川房枝記念会女性と政治センター

東京都渋谷区代々木2-21-11 婦選会館

URL www.ichikawa-fusae.or.jp

アクセス

- JR線 代々木駅北口・新宿駅南口・新南口下車 徒歩7分
- 小田急線 南新宿駅下車 徒歩3分
- 地下鉄都営新宿線・大江戸線 新宿駅A1出口下車 徒歩3分



お申込みは FAX(03-5388-4633)、電話(03-3370-0238)、メール(fitikawa.moushikomi@fork.ocn.ne.jp)でお願いします。

お名前
ご連絡先

所属

第1回・5月30日

男女共通の労働時間規制は可能か —家事労働ハラスメントを超えて

講師 竹信 三恵子氏

〈プロフィール〉 ジャーナリスト・和光大学教授。アジア女性資料センター理事・官製ワーキングプア研究会理事。著書に『ルポ雇用劣化不況』（岩波新書、日本労働ペンクラブ賞）、『家事労働ハラスメント～生きづらさの根にあるもの』（岩波新書）など。近著に『ピケティ入門～「21世紀の資本」の読み方』（金曜日）。

〈講師からのメッセージ〉

日本の女性が活躍できない大きな原因に、妻が家庭にいることを前提にした異様な長時間労働があります。人が生きていく上で不可欠な家事労働の存在を無視した「家事労働ハラスメント」とも呼べるような労働時間のありかたを、転換させていくことがいま急務です。政府の「高度プロフェッショナル制度」などの新労働時間の提案は、果たしてそれを可能にするのかを含め、これからの労働時間規制について考えていきましょう。

第2回・7月25日

子どもの貧困対策をめぐる現状と展望 —ジェンダー平等の推進に向けて

講師 湯澤 直美氏

〈プロフィール〉 立教大学コミュニティ福祉学部教授。「なくそう子どもの貧困」全国ネットワーク共同代表。専門は社会福祉学。貧困／暴力／家族に焦点をあてつつ、ジェンダーの視点から社会政策にアプローチしている。

〈講師からのメッセージ〉

近年、日本における子どもの貧困問題がクローズアップされ、法律や大綱も策定されました。子ども期に貧困に晒されることが子どもにいかなる影響を与えるのか、子どもの側にたって貧困を考えるという点で、「子どもの貧困」という視角は重要です。しかし、貧困をめぐる政策・研究にはジェンダーの視点が希薄である、という問題が横たわっています。いかにジェンダー平等の観点から子どもの貧困にアプローチできるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

第3回・9月26日

海外のジェンダー予算の取組み —韓国・フィリピンの事例に着目して

講師 越智 方美氏

〈プロフィール〉 独立行政法人国立女性教育会館研究国際室専門職員、2008年より現職。国立女性教育会館では、海外のナショナル・マシーナリーや市民社会組織との連携業務を担当し、社会学の視点から日本やアジア諸国のジェンダー平等政策について研究をおこなっている。

〈講師からのメッセージ〉

「北京会議」以降、ジェンダー予算の必要性が認識され、その導入が各国で進められてきました。その形態は多様ですが、グローバル・スタンダードとなったジェンダー予算の実態の一端を、フィリピンと韓国の調査結果をもとに報告します。実施にあたっての課題は何か、両国の経験から日本は何を学ぶことができるかについて、参加者の皆さんと一緒に議論したいと思えます。

